

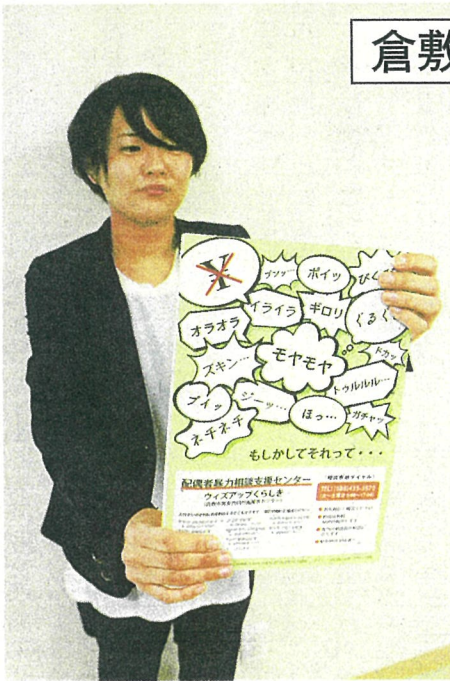
# 進む高梁川流域連携

## 倉敷市 ちらし作り相談呼び掛け

# DV被害オノマトペで

倉敷市は県立大と協力し、配偶者から暴力を受けるドメスティックバイオレンス(DV)に関する相談を呼び掛けるちらしを作った。DVによる心身の痛みやつらさを「ズキン」といったオノマトペ(フランス語で擬音語や擬態語)で分かりやすく伝えるデザインで、被害を自覚していない「潜在的被害者」を掘り起こすのが狙い。高梁川流域圏の連携事業として、29日から流域の10市町で配布する。(石井聡)

ちらし(A4判)は表裏「蹴られる」(ドカッ)▽あり、表面に「ドカッ」▽「人前で欠点を指摘する」キン: 「オラオラ」など(ズキン: )▽「ののし16種類のオノマトペを記しられ、見下される」(オ「もしかしてそれって:」ラオラ)ーなどと、それと書いた。裏面では各オノ それ対応するDV被害をマトペについて、「殴られ、説明した。」



DV被害の相談を呼び掛けるちらしを、デザインした森本さん

## きょうから 10市町で配布 県立大大学院生デザイン

相談先として、倉敷市の配偶者暴力相談支援センター(086-4351-5670)など、10市町の相談窓口と電話番号を記した。

デザインを考案したのは、県立大大学院1年でオノマトペを活用したグラフィックデザインを研究する森本早智さん(23)。倉敷市から大学を通じて依頼を受けた。森本さんは「オノマトペは感覚を刺激して情報を伝える言葉で、DV被害を自覚してもらうのに適している」と話す。

倉敷市は、デザインを印刷したちらしを1万部製作。10市町の市役所・町役場窓口などで配る。配偶者暴力相談支援センターに寄せられた2016年度のDV相談件数は2月末までに673件で、前年度同期比12.9件増。